

聞きました、 関西の新しい 空港について。 感じました、 日本の新しい 窓口になると。

関西国際空港一。どのような空港になるのでしょうか。騒音は、地域はよくなるのかなど、関西国際空港株式会社・竹内良夫社長に「女性にもわかるように」とお願いして尋ねてみました。



関西はよくなる一。けれども伊丹の能力で止まってしまっています。

なぜいま新空港が必要なのでしょう。 「空港需要、人の動きや貨物の動きがどんどん増えてきてるってことですね。関東ではこれに伴い、羽田があって成田ができました。ところが関西は伊丹だけ。関西の伸びが伊丹の能力でストップしてしまっている状態です」 また、伊丹の騒音問題もあるそうです。

人が住んでる上をできるだけ飛行機が飛ばないように一。

なぜ泉州に決まったのですか。 「人が住んでる上をできるだけ飛行機が飛ばないように海の上、泉州の沖合5km

のところと決まったわけです。陸に近くなれば騒音、それ以上沖につくると今度は橋をかける費用の問題が出てきますね。面白いことに謡曲にもあるのですが、この辺は極楽浄土から舟が舞い降りてきて、天子様に宝を授けて飛び立っていったという伝説もあるのですよ」 出身は工学部。謡の話が出てきたのは意外です。

滑走路がでこぼこにならないように、この仕事をうまくやる一。

海という地盤沈下は大丈夫ですか？

「埋立ての土は1億5千万㎡。大阪駅前マルビルの約

2,000杯分の量ですが、砕いて膨張した分量が1億5千万㎡ですから実際に採る量はもう少し少なめです」

新潟の港、苫小牧・鹿島臨海工業地帯づくりの実績の持ち主。自ら土木エンジニアと言われるだけあってやさしい説明ながら技術的な話になると話題はどんどん発展します。

「海底下20mぐらいいは沖積層、そのまた下に170~180mぐらいいの洪積層があるんですが、重い土を載せると少しずつ縮こまらなくなります。これを強制的にそれ以上縮こまらないように、ここのところの仕事をうまくやらないと将来、滑走路がでこぼこになっちゃう(笑)」

平然と笑っていらっしゃるが工法の話は専門の分野。博士号も取得されたとか。技術には自信があるとも言っておられます。想像もつかないような工事ですね。

「われわれもね、まだ想像はできてない

んだけれども(笑)。完成が昭和67年度末。まわり(上の施設)をつくるのが2年間、土を持ってきてセットするのが4年間ですからね」 とても短期の工事だそうです。

24時間空港をうまく利用すれば貨物の量では世界で2~3番目の空港

「アクセスは成田に比べるとはるかに便利です。大阪市内から自動車ですら約50分、南海電車だったら難波から30分というところ。神戸からは船も考えられますね。世界の空港と比べると規模はちっぽけですよ。島ですからね。それでも全体の1,200haが完成すると、成田の1,065haを越えて世界で20番前後に。ところが、小さくても乗客数は第1期工事で2,200



万人の能力を持たせますから世界で6~7番目、24時間空港ですから貨物の量は世界で2~3番目になると思いますよ」 空港では2万人もの人が働き、家族も含めるとその4~5倍の人口が予想されるとか。泉州地域はどのように？

「うーん、素晴らしい『田園の都会』になりうるんじゃないかって感じはしますね。住宅・工業・レクリエーション地域だとか学園都市、要するに全体の地域計画っていうのをうまくデザインしますとね」



山を削って素晴らしい地域に——。竹内社長の構想はとても壮大。

お客様にスムーズに動いていただける点では世界一にしたいですね。

建設のご苦勞をうかがうと。

「あんまり苦勞かどうか……(笑)。建設に行くまでの皆さんの同意、これが非常に大きな問題ですね。それから軟弱地盤を平行に沈める技術的な問題。皆さんに喜んでいただける立派な空港をつくりたい、充実さでは世界で最高のものにしたいですね。人の動き、お客様にどうやってスムーズに動いていただけるかってことを考えると苦勞っていうか問題がありますね。喜び？うーん、いろんな障害を乗り越えてつくっていくって(笑)、それで完成すりゃ……やっばりね」

自立してきた関西の強さ。これからは日本の窓口として。

お忙しい毎日、せっかく大阪にいらしても、食べ歩きされる暇もありませんね。「女房は、歩いているようですけれども、食事にはなかなか行けなくてね。最高の料理ってのはそれ程うまくない、なんていったらいけないかな(笑)」 これからの日本の窓口は空港だとおし

やる社長。成田とともに窓口となる関西について

「関東と比べると関西の人たちの方が自由度がある、抑圧された節度ってのが少ないのね。江戸時代から武士がコントロールした関東と、商人が自分たちの方で自立してきた関西との差はあるんじゃないか。ただ自動車の駐車の仕事だとか地下鉄の乗り方なんか、ちょっとしたことをもう少し自分達で律したらもっと住みやすくなると思いますよ。南欧的な自由で明るい気風もあって、いいところですね、関西は」

竹内良夫関西国際空港株式会社社長の略歴
昭和21年、東京帝国大学第二工学部卒。同年運輸省に入省。港湾建設の技術畑一筋。港湾局長を最後に同51年退省。同省の外部機関・国際臨海開発研究センター理事長を経て、同59年10月関西国際空港株式会社社長就任。工学博士。

インタビューを終えて

カメラのセッティングに時間が必要な旨、告げると、「それじゃあその間、別の部屋で」と「ここがいいかな」なんて応接室・会議室を2つ3つ先導してくださる間に緊張も少しはぐれてまいりました。空港は専門外とおっしゃりながらどんな愚問にもいいねいに。途中、カセットテープのトラブルも直して下さったり、誌面の都合で割合していますが「単身赴任じゃないよ」などと一サラリーマンとしてのお話も。東大時代はボート部に。海が好きでヨットもなさるとか。壮大な話題、豪快な笑いに、インタビュー時間があっという間に過ぎたほどでした。



インタビュー／田中増美